

## 閉会 の 挨拶



小泉 明 (日本医学会副会長)

今回の第124回シンポジウムでは、日常診療はもとより、健常者を対象とする健康診断等でも出会うことの多い肥満を取り上げ、「肥満の科学」の主題そのままに、最近著しい進展が見られた研究の成果が紹介され、活発な討議が行われました。

従来、体脂肪蓄積の場所くらいにみられていた脂肪細胞がホルモンやサイトカインを産生し、糖尿病や動脈硬化のなりたちにかかわっている状況、また摂食行動に関与する多様な要因があり、それが人類進化の視点も含めて深く考察されたことも印象的でした。この分野で世界に向けて絶えず発信し、学会を

リードしておられる方々の研究発表と白熱した論議はまさに、日本医学会シンポジウムにふさわしいものと、有意義に思いました。限られた人数で可能な限り十分な時間をかける夏のシンポジウムの特徴が十分に生かされたと思いました。

組織委員の松澤先生、中尾先生、永井先生、門脇先生にはこのシンポジウムの企画ならびに運営に力を注いでいただき、厚く御礼を申し上げます。併せて貴重な研究報告をされた演者、討論者、そしてすべての参加者の方々に感謝いたしまして閉会のご挨拶といたします。ありがとうございました。